

2023年度 上田市立第六中学校 自己評価シート(最終報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価	
敬・和・創	敬:人を敬い、人から信頼される生徒 和:人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒 創:自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒		(成果) ・コロナウイルスが5類に移行したことで、これまでの学校活動への制限が緩和され、活気のある子どもたちの姿が増えてきている。特に本校が伝統的に大切にしている合唱活動や、地域に開かれた学校づくりの取組では、発表会に向けた準備や練習の段階から対話を通じた元気な子どもたちの姿が見られた。 ・本年度行ったアンケートの結果からは、子どもたちと教職員との関係の良さが感じられた。このような関係の良さが、日々の子どもたちの学校生活や授業の楽しさにつながっていると思われる。 ・「あいさつ」「学級の雰囲気」「授業中の取組」「合唱の取組」「相談できる環境」に関する項目についての評価では、学年が上がるほど子どもたちの肯定的な回答が多く見られた。お互いの成長とともに、信頼関係が深まってきた成果であると言える。 ・本年度は、定期テスト前に「質問タイム」を位置付けた結果、子どもたちの学ぶ意欲の向上につながった。次年度も継続したい。	
	重点目標	1 (敬)		【生活習慣の確立】 さわやかな挨拶・心をこめた清掃・時を守る行動
		2 (和)		【開かれた集団づくり】 合唱を通じた仲間づくり・仲間を思いやる行動・伝統の黄色いリボン運動
		3 (創)		【前向きな学習への取り組み】 ねばり強く追究する姿・ICTを活用した、主観的・対話的で深い学び
			(課題) ・コロナ禍で地域との連携が希薄になっている。毎年10月に行われていた四者会議を、昨年度、総合的な学習の時間の発表会に変更し、コロナ禍でも持続可能な地域連携の場として実践しているが、学校と地域との交流はコロナ前ほど活発になっていない。コロナによる制限が緩和されてきたので、新たな地域連携の形を検討し、交流を活発にしていきたい。 ・昨年度に引き続き、家庭学習への指導・助言を充実させたい。子どもたちが学ぶ意義を考えられるような支援を、授業の中で行っていきたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	○成果と▲課題	A	B	C	D	今後の展望	
教育活動	生徒指導	規範意識の育成	学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか	○大半の子どもたちが落ち着いて生活している。 ○子どもたち一人一人に寄り添い、多様性に寛容な学校の雰囲気がつくられている。		○			・教師による指導に統一感を持たせ、子どもたちに考えさせるような指導を充実させる。 ・活動毎にふり返りの時間を十分に確保し、自他の成長を実感できるような時間を大切にす。 ・対話的な活動をさらに充実させ、風通しのよい雰囲気づくりを継続していく。 ・教職員がお互いの良さから学び合う。	
		素直さ・感謝の心を育てる	職員は、生徒の努力やがんばりを認め、あたたかい言葉がけをしているか	○生徒同士の関わりを大切にしたり対話的な活動を通じて、お互いを認め合う雰囲気が高まっている。 ▲個人のアセスメントをさらに充実させたい。	○					
		開かれた学校・学級作り	職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを发表しあえる共感的な雰囲気づくりに取り組み、楽しく、和やかな学校づくりに努めているか	▲授業の受け方を中心に学習規律を高めることや、マナー面の向上を図ることが課題である。			○			
	学習指導	分かる授業	職員は、本時の学習内容を生徒にはっきり伝え、発問や板書、教材の提示方法等を工夫しながら分かりやすい授業にしようとしているか	○ICT機器を効果的に活用しながら、個別最適な学び方をつくり出す職員のスキルが向上した。 ○各教科で学習問題や追究方法、手だてについて研究が進められ、授業改善につながった。特にICTを活用した実践が深まった。	○					・ICTの利活用をさらに促進し、学び方の多様化や、学びの機会の保障につなげていく。また、情報モラル教育を推進し、ネットリテラシーの向上を図る。 ・授業の中で協働的な学びを充実させ、対話を通じた深い学びを目指していく。
		集中して取り組む授業	職員は授業時間を守り、授業での追究方法を工夫し、一時間の授業に集中して取り組ませているか	○定期テスト前に位置付けた「教科質問タイム」により、子どもたちの主体的な学びを引き出すことにつながった。 ▲協働的な学びの位置付けが課題である。			○			・授業ルールを誰にでもわかるような形で明確にし、指導の徹底を図る。 ・本年度子どもたちに好評だった「教科質問タイム」を一層充実させ、子どもたちの主体的な学びにつなげる。また、家庭学習が充実するような指導・助言を工夫する。
		家庭学習への支援	職員は、教科の専門性を生かし、生徒が自己課題を明らかにし、家庭学習への見通しが持てるような助言をしているか	▲家庭学習への動機付けや具体的な助言を充実させたい。				○		
		道徳性の涵養	学校では、生徒が自己の生き方や夢の実現について考えたり学んだりする機会をつくりだしているか					○		
	教育課程	歌声の響く学校作り	職員は合唱に親しみ、歌う喜びを実感できる生徒を育てているか	○個々に寄り添った支援が充実し、多様性に寛容な学校の雰囲気が育まれた。 ○昨年度からサポートルームを開設したことで、不登校の未然防止や支援の多様化につながっている	○		○			・合唱活動を、集団づくりの機会としても大切にしていく。 ・引き続き、個々の子どもたちに寄り添ったきめ細やかな指導を心がける。 ・全校がお互いの多様性を尊重し、認め合う雰囲気をこれからも大切に育んでいく。 ・本校で伝統的に続けられている黄色いリボン運動等の活動の意義を毎年全員で確認し、共有することで、意味のある活動にしていく。
		不登校・不応生生徒への支援	職員は生徒の困り感や特性を理解し、一人一人に寄り添って支援をしているか	○毎月の生徒アンケートが、子どもたち同士のトラブルの早期発見・早期対応に役立っている。 ▲黄色いリボン運動等の伝統的な活動の意義を周知する。 ▲サポートルームの持続可能な運営方法を検討する。	○					
		人権感覚の育成	学校では、黄色いリボン運動・人権教育等を通して、生徒の人権感覚が高まる指導をしているか					○		
生徒会活動		学校は生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか	○子どもたちが主体となって各委員会等特色のある取組を実践している。 ▲有意義な活動にするための準備時間を確保する。	○					・生徒が主体となって活動が進められるような十分な時間を確保できるように見直しをもって支援していく。	
学校運営	地域との連携	愛郷心の育成	学校では、地域への愛着を高め、地域との連携を深めるための工夫をしているか	○地域に出て行う総合的な学習の時間の発表会が位置付いてきた。 ▲地域連携をさらに充実させる方法を検討する。			○		・地域資源の再開発を行い、学校の活動を支援できるボランティア等の人材確保を目指していく。	
		地域から信頼を得る	学校は、学校便り、学年・学級便りや学校ホームページ等を通して、学校の様子を丁寧に知らせ、学校への理解を深めてもらおうとしているか	○写真を多く活用したわかりやすい発信ができた。 ▲学校の様子についてさらに理解を深める。			○		・タイムリーな情報発信を心がけ、学校教育への理解を図る。	

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった